

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書【教務部】

岐阜県立岐阜清流高等特別支援学校

学校番号

106

自己評価

|  |  |  |
|--|--|--|
| (教務部)<br>教育目標  | ・社会自立・職業自立に必要な知識・技能の習得を図るとともに、思考力・判断力・表現力及び自ら学ぶ意欲や態度を育てる。  |  |
| 評価する領域・分野  | 教育方針・家庭との連携・授業・教育活動の広報・職業教育 等  |  |
| 現状及びアンケートの結果分析等  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育方針については、評価が80%~90%であるが、「交流・生徒の経験を広げる」という項目は2年間80%前半とやや低い。コロナ渦においてもできることや、生徒、保護者のニーズを考慮し、卒業後を見据えた学習を計画していく。</li> <li>・授業では、保護者アンケートより「授業内容が生徒に即している」項目が70%台である。教員一人一人が取組ごとに実態把握に努め、「生徒が分かる」「達成感を味わう」ことができる授業を計画していく。</li> </ul>           |  |
| 今年度の具体的かつ明確な重点目標   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の進路希望や学習状況を踏まえた教育課程や具体的な指導内容を検討し、きめ細かな指導を充実する。</li> <li>・学校教育全体を通して、社会生活で活用できる実践力、地域に貢献できる力を育成する。</li> <li>・卒業後、働く人・働き続ける人になれるよう、他分掌や企業と、関係機関と連携した学習活動を計画、実践する。</li> <li>・教科の授業等におけるICT活用を推進するとともに、情報教育の充実、教員のICT活用指導力の向上を図る。</li> </ul> |  |
| 重点目標を達成するための校内組織体制   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科会（一般教科、専門教科）、学年会の実施</li> <li>・情報教育担当によるICT活用についての教員支援</li> <li>・生徒が主体的に取り組むことができる学校行事の充実を図るための他分掌との連携</li> </ul>   |  |
| 目標の達成に必要な具体的取組   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に教科会や学年会を実施し、指導内容の確認、生徒理解、共有を図る。</li> <li>・学習に係る会議などの校内組織体制（役割、内容等）の整備、実施</li> <li>・職場での実習や学校行事と連動した個別懇談の実施。</li> <li>・年間指導計画の見直し</li> <li>・学校ホームページの充実（定期的な更新）</li> </ul>  |  |
| 達成度の判断・判定基準あるいは指標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科や行事における生徒の目標達成度</li> <li>・懇談結果や実習後の自己評価及び実習先評価</li> <li>・生徒及び保護者・学校運営協議会委員を対象としたアンケートによる回答</li> </ul>   |  |
| 取組状況・実践内容等   | ・教育課程、年間計画、行事等の計画、実施・教科書、補助教材の検討・教科会の実施・学校要覧、学校紹介の作成・個別の指導計画の作成・情報教育、視聴覚教材管理   |  |
| 評価の視点  | 評価   |  |
| ①本校の教育目標に基づいた教育活動を計画・実施できたか  | A (B) C D  |  |
| ②各教科や行事において、生徒がやりがいや目標をもって取り組むことができたか  | (A) B C D  |  |
| ③校内組織が整備され、円滑な学校運営に繋げることができたか  | A B (C) D  |  |
| 成果・課題  | 総合評価   |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価の観点など年間指導計画を見直し、授業計画、指導を行うことができた。</li> <li>・定期的な懇談会は、保護者との連携を深めるために非常に有効であったため、同様の時期、回数で設定する。</li> </ul> | A (B) C D  |  |
| 来年度に向けての改善方策案  | 各組織の役割や連携が不十分であるため、引き続き整備する。学校教育目標を達成するために、組織と実際の指導がより一貫性のあるものとしていく。   |  |

学校関係者評価 (令和5年2月24日実施)

|   |
|---|
| 意見・要望・評価等   |
| <p>今年度、職員の人事異動が3分の1近くあったようだが、多くの先生が転勤することは生徒への不安も大きい。また、本校は軽度知的障がい「コアスクール」であることから、配慮してもらえるとよい。開校して6年経過したが、新転任職員からの新たな意見を大切にしながら教育計画全体を見直していけると良い。</p> |

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書【進路指導部】

岐阜県立岐阜清流高等特別支援学校 学校番号 106

自己評価

|   |   |  |
|---|---|--|
| (進路指導部)<br>教育目標   | ・生徒一人一人が、自己肯定感と自信をもち、卒業後、地域社会の一員として、企業就労することで主体的に地域社会に貢献できるようにする。   |  |
| 評価する領域・分野   | 進路指導  |  |
| 現状及びアンケートの結果分析等   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の就労意識は確実に向上している。「働く人」「働き続ける人」になるために、様々な体験を通してできることを増やすことで自信をもつことや、自ら具体的な目標を立て実践することで、企業の求める主体性や労働意欲の向上を目指す必要がある。</li> <li>・進路に関する情報提供、関係機関との連携等の項目で「あてはまる」の回答が、生徒保護者ともに8割を超えており、昨年度より割合が多くなった。引き続き生徒の実態や保護者のニーズに応じた具体的な情報提供や関係機関との連携を行う。</li> </ul>   |  |
| 今年度の具体的かつ明確な重点目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・職業に関する知識・技能を身に付け、勤労観・職業観を構成し、社会性を高める人間力のある生徒を育成する。</li> <li>・企業就労に向けて自ら具体的な目標を立て、着実に取り組む生徒を育成する。</li> <li>・企業向け学校見学会等の開催及びメールマガジンの配信を行い、障がい者雇用に対する理解の促進及び連携を図る。</li> <li>・進路情報の発信及び各種進路研修会の参加を促進し、保護者の進路意識の高揚を図る。</li> <li>・卒業生の進路先を訪問し、支援を継続することにより定着を促す。</li> </ul>   |  |
| 重点目標を達成するための校内組織体制  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・個に応じたキャリア教育を進め、保護者と共に職業自立できる力を育成する。</li> <li>・卒業後を見通した校内組織の整備を進め、新規企業開拓を進める。</li> </ul>   |  |
| 目標の達成に必要な具体的取組  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・実態に合った事業所での企業内実習や現場実習を実施。</li> <li>・事業所や関係機関を対象とした学校見学会を開催。企業向けメールマガジンを配信。</li> <li>・障がい者雇用の理解を深め、積極的な職場開拓を実施。</li> <li>・より雇用ニーズに応じた専門コース等授業の在り方や、人間力向上についての指導助言。</li> <li>・保護者向け進路説明会や進路だより等による情報提供。進路懇談の開催。</li> </ul>  |  |
| 達成度の判断・判定基準あるいは指標   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業内実習、現場実習における評価。(事業所側の評価、自己評価)</li> <li>・保護者等を対象としたアンケートにおける回答。 ・生徒の就労意識の程度。</li> </ul>  |  |
| 取組状況・実践内容等  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門コース関連業種の企業における企業内実習の実施。巡回指導と情報交換。</li> <li>第1期(全43事業所) 第2期(全41事業所) 第3期(全44事業所)</li> <li>・現場実習の実施 2年生 第1回(全40事業所) 第2回(全40事業所)</li> <li>3年生 第1回(全42事業所) 第2回(全38事業所)</li> <li>・3年生進路状況 企業就労40名 福祉就労5名(A型2名、B型1名、移行支援2名)</li> <li>・企業や事業所向け学校見学会(19事業所 34名)</li> <li>・企業向けメールマガジンの配信(10号 62名 内今年度新規15名)</li> <li>・職場開拓(訪問数:143事業所 新規受入事業所数:49事業所)</li> <li>・関係機関との連携 ・卒業生の定着支援</li> <li>・保護者向け進路説明会(各学年2回)、ハローワーク職員による講話、「先輩と語る会」、情報提供等(進路だよりの定期発行、進路指導室の整備)</li> </ul> |  |
| 評価の視点   | 評価  |  |
| ①生徒の勤労観や職業観を高めることにつなげることができたか。  | A (B) C D   |  |
| ②本校の教育や障がい者に対する理解を深め、実習協力事業所を拡大できたか。  | A (B) C D   |  |
| ③保護者や地域に対して、進路に関する情報提供が適切にできたか。   | A (B) C D   |  |
| 成果・課題   | 総合評価  |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○コロナ禍ではあったが、全学年おおむね計画通りに実習を実施できた。3年生は第1回現場実習後の7月に半数近くに求人票が届き、順調に内定が出た。</li> <li>○1年生は企業内実習で3つの業種を体験し、働くための体力や集中力の必要性を体得できた。</li> <li>○進路説明会開催、進路だより発行等を計画的に実施し、進路に関する情報提供ができた。</li> <li>○企業向け学校見学会の実施や職場開拓により、新規受入事業所が拡大できた。</li> <li>▲関係機関や進路先とさらなる連携を図り、計画的に定着支援を行う必要がある。</li> </ul> | A (B) C D   |  |
| 来年度に向けての改善方策案   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門コースを軸としながら教育活動全般で就労に向けての取組を行い、生徒の実態に応じた具体的な目標や指導内容を設定し、共通理解のもと組織的に実践していく。</li> <li>・生徒の居住地や専門コースと整合性の取れた新規企業、産業の開拓を行う。</li> <li>・関係機関や進路先とさらなる連携を図り、卒業生の定着支援を行う。</li> </ul>   |  |

学校関係者評価 (令和5年2月24日実施)

|           |   |
|-----------|---|
| 意見・要望・評価等 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導室の整備について、検索システムで企業情報を閲覧できるようにしたことはとても良い取組である。</li> <li>・定着支援について、卒業生の離職理由が責任の重さからくる適応障害であることを踏まえ、関係機関とのさらなる連携が必要だと感じている。教育活動全般で心の強い子を育ててほしい。</li> <li>・引き続き、生徒の特性を理解し、それぞれの生徒にあった進路指導をしてほしい。</li> </ul> |
|-----------|---|

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書【生徒指導部】

岐阜県立岐阜清流高等特別支援学校

学校番号

106

自己評価

|   |  |           |
|---|--|-----------|
| (生徒指導部) 目標  | 一人一人の健全な成長を促し、現在及び将来における自己実現を図っていくための自己指導能力を育成するとともに、自他の生命を尊重し、思いやりの心や倫理観や道徳観、規範意識を体得できるよう指導する。  |           |
| 評価する領域・分野   | 生徒指導・教育相談・人権教育・特別活動(生徒会・委員会・MSL活動)・部活動   |           |
| 現状及びアンケートの結果分析等   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめに関する項目では、「よくあてはまる」「ややあてはまる」が生徒89%(昨年86)、保護者82%(昨年77)と、昨年よりも上回っている。事案も減少しており、仲間を大切にできる生徒が増えたと考えられる。</li> <li>・保護者項目29の「身を守る教育」については、「わからない」の回答が多い。情報を更新し、家庭にも伝わる指導ができるようにする。</li> </ul>                |           |
| 今年度の具体的かつ明確な重点目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年や関係分掌と連携した生徒指導・教育相談体制を構築し、継続的な生徒指導・生活指導、問題行動に対する指導を充実させる。</li> <li>・各種講話、学習を実施し、トラブルやリスクを回避できる力を身に付ける。</li> <li>・生徒会活動や部活動を通して、主体性、自己を生かす能力を育む。</li> <li>・アンケートや相談を実施し、心の問題等に対し早期発見・対応に繋げる。</li> </ul> |           |
| 重点目標を達成するための校内組織体制  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年主任を中心とした学年による継続した生徒指導の実施。</li> <li>・教務部と連携し、生徒指導に係る取組について年間を通して計画、調整。</li> <li>・不登校や問題行動等に対する支援部、養護教諭との連携。管理職との相談。</li> <li>・生徒会活動を月に1回の活動日に加え、放課後を活用できるように設定。</li> </ul>                              |           |
| 目標の達成に必要な具体的取組  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導部と学年が連携し、学年での日常的な生活指導の実施。</li> <li>・時節や生徒の傾向に応じて、集会や外部講師による講話、学習の設定。</li> <li>・年間を通じたアンケートや相談の実施。SCや外部機関の活用。</li> </ul>  |           |
| 達成度の判断・判定基準あるいは指標   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題行動等に対する生徒指導体制、組織的な対応。</li> <li>・学習活動等における生徒の姿(規範意識、主体的な行動等)</li> <li>・生徒指導事案、情報モラル違反事案、事故等が軽減あるいは減少。</li> </ul>  |           |
| 取組状況・実践内容等  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題行動事案等に対する関係者との日常的な連携、各種委員会の実施。</li> <li>・清流祭、生徒会活動、部活動、MSリーダーズ活動の実施。</li> <li>・交通安全、情報モラル、薬物乱用防止、人権学習等、自他を大切にするための教育の実施。</li> <li>・生徒のニーズに合わせたSCや校内支援会議と教育相談活動。</li> </ul>                             |           |
| 評価の視点   |  | 評価        |
| ①問題行動等において、生徒指導部が他と連携し、組織的に対応できたか。  |  | A (B) C D |
| ②生徒が規範意識をもち、主体的に活動する姿が見られたか。  |  | (A) B C D |
| ③積極的な生徒指導を行い、問題行動や事故等が軽減あるいは減少したか。  |  | A (B) C D |
| 成果・課題   |  | 総合評価      |
| ○問題行動に即時対応した。発生時は、学年や関係者と連携し迅速な対応ができた。<br>○生徒会執行部を中心に、毎朝の挨拶運動を継続し、規範意識の向上や生徒自身による呼びかけができるなど、「より良い学校づくり」に取り組むことができた。<br>○各種講話や学習について、前年度の反省を生かし実施方法を改善しながら行った。生徒自身が自分の課題として、具体的に考えることができた。<br>▲保護者を含む生徒対応について、その対応や体制が不十分な面があった。 |  | A (B) C D |
| 来年度に向けての改善方策案   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題行動等が発生した際に、担任や学年と詳細を確認し、組織的に対応ができるよう、他分掌と連携し、迅速に会議や検討の場を設定する。また、職員にPCを活用して、周知徹底を図る。</li> <li>・SCやスペシャリストサポート事業の活用について、生徒や職員に具体的な内容を周知し、指導支援に役立てる。</li> </ul>   |           |

学校関係者評価 (令和5年2月24日実施)

|           |   |
|-----------|---|
| 意見・要望・評価等 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年を中心として生徒の話を聞いてほしい。今後も職員全員で生徒を観察し、共通理解を図って指導支援ができるとよい。</li> <li>・継続性のあるものや、SCの男女を選ぶ必要とするトラブル事案については、スペシャリストサポート事業を活用して対応できるとよい。</li> </ul> |
|-----------|---|

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書【保健安全部】

岐阜県立岐阜清流高等特別支援学校

学校番号

106

自己評価

|   |   |
|---|---|
| (保健安全部)<br>教育目標   | <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒自らが運動に親しみ、健康や安全に留意しながら学校生活を送るための知識や意欲、態度を育成する。</li> <li>校内安全管理、災害対策を行い、事故のない安心・安全な教育環境の充実を図る。</li> </ul>   |
| 評価する領域・分野   | 安全、緊急時の対応、医療機関との連携、健康管理   |
| 現状及びアンケートの結果分析等   | <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒及び保護者・協議会委員ともに「新型コロナウイルス感染症対策」「緊急時の対応」について、この3年間を通じて概ね90%前後の「あてはまる」の評価を得ている。特に、生徒の「学校は新型コロナウイルス感染症対策がしっかり行われている」では、「あてはまる」が97%という高い評価であった。</li> </ul>  |
| 今年度の具体的かつ明確な重点目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>本校生徒の課題に即した保健教育を充実させるとともに、感染症の予防と発生時の対応を充実させ、学校環境の衛生管理に努める。</li> <li>スポーツ交流会等の学校行事や保健体育の授業を充実させる。</li> <li>様々な想定での各種訓練を実施し、命を大切にできる生徒を育てる。</li> <li>施設管理、校内美化を推進し、公共物を大切にできる態度を育てる。</li> <li>災害時に適切な対応ができるよう地域と一体となって防災力を高める。</li> </ul> |
| 重点目標を達成するための校内組織体制  | <ul style="list-style-type: none"> <li>保健、体育、防災、環境の4項目を重点目標に関連付けた業務分担を行う。</li> <li>担任や生徒会(委員会)と連携して、保健や安全、環境衛生の維持、改善に努める。</li> <li>地域、学校、専門家が連携した危機管理体制を確立する。</li> </ul>  |
| 目標の達成に必要な具体的取組  | <ul style="list-style-type: none"> <li>様々な想定での訓練を実施し、適切な判断や行動ができるようにする。</li> <li>年間計画を作成し、各分野の専門家の協力を得て、食育、性教育、防災教育を推進する。</li> <li>外部講師を活用した各種研修を設定する。</li> </ul>   |
| 達成度の判断・判定基準あるいは指標   | <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒、職員の健康や安全に対する調査を行い、継続的な取り組みの状況を確認する。</li> <li>各取組に対する改善アンケート(職員)の分析結果と改善点を提示する。</li> </ul>   |
| 取組状況・実践内容等  | <p>【保健】新型コロナウイルス感染症対応、性講話(生徒)、性教育研修(職員)、性の相談週間、性のLHR、保健日より発行、食育セミナー、歯科指導、健康相談</p> <p>【体育】新体力テスト、身体測定、スポーツ交流会</p> <p>【防災】命を守る訓練、非常変災時対応訓練、高校生防災アクション、防災日より発行</p> <p>【環境】安全点検、備品管理と整備、清掃(日常・定期)</p>   |
| 評価の視点   | 評価  |
| ①訓練や研修等の体験的な活動を通して、生徒が健康で安全に生活することができたか。  | A (B) C D   |
| ②職員の安全に対する危機管理意識、専門性を高めることができたか   | A (B) C D   |
| ③安心安全な学校となるための危機管理体制を整備することができたか。   | A (B) C D   |
| 成果・課題   | 総合評価  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○新型コロナウイルス感染症の予防対策を徹底し、全校態勢で感染症予防に努めることができた。</li> <li>○性教育、食育は年間計画を立て、専門家と連携し、一連した取り組みができた。</li> <li>○命を守る訓練を消防署員立ち会いのもと実施し、場面に応じた防災意識を高めることができた。</li> <li>○性教育では専門家の講話を聞く機会を設けた。3年間で定期的に学ぶ取組が定着してきた。</li> <li>▲コロナ禍が明けたら、行政と地域と連携し、避難所開設訓練を実施する。</li> </ul> | A (B) C D   |
| 来年度に向けての改善方策案   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症予防対策の徹底と更新を行い、生徒と職員が感染しないように取組を継続する。</li> <li>・性教育、食育、防災は3年間で必要な知識を学び、経験が積めるように計画的に取り組む。</li> <li>・一般教科と連携し、がん教育を推進する。</li> <li>・行政、地域、学校が連携した防災体制の確立と訓練を実施する。</li> </ul>  |

学校関係者評価 (令和5年2月24日実施)

|  |
|--|
| 意見・要望・評価等  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会としても避難所開設時の協力態勢を整えていきたい。</li> </ul> |

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書【支援部】

岐阜県立岐阜清流高等特別支援学校 学校番号 106

自己評価

|  |   |
|--|---|
| (支援部)<br>教育目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業就労を見据え、個に応じた指導・支援、合理的配慮の提供ができるよう、研修や相談活動の充実を図る。</li> <li>・総合産業科における専門性の高い職業教育を推進するための研修・研究活動を行い、指導内容の充実を図り、進路指導力と教育実践力を高める。</li> </ul>              |
| 評価する領域・分野  | 家庭との連携、その他  |
| 現状及びアンケートの結果分析等  | 家庭との連携⑥、⑩とその他⑪は「よくあてはまる」「ややあてはまる」を合わせて80%以上の回答があった。教育方針や指導の内容について、懇談で個別の教育支援計画を活用して共通理解を図ったり、保護者の意見収取をしたりしたことで、個別の教育支援計画に保護者や関係機関の意見が反映されていると評価されたと考えられる。                                     |
| 今年度の具体的かつ明確な重点目標   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の教育支援計画の作成支援や相談支援、支援会議を行い、支援機関と連携し、生徒の社会自立に向けた支援の充実や共通理解を図る。</li> <li>・専門コースの指導・支援の充実と軽度知的障がいのコア・スクールとしての専門性を高めるための職員研修を実施する。</li> </ul>            |
| 重点目標を達成するための校内組織体制   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年の個別の教育支援計画担当者、学年主任と連携</li> <li>・コア・ティーチャーや専門コース主任と連携</li> <li>・職業教育推進委員会、専門コース主任会の運営</li> </ul>  |
| 目標の達成に必要な具体的取組   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の教育支援計画の作成支援と管理を学年単位で行う。</li> <li>・相談支援を行い、必要に応じて支援会議、ケース会議を開く。</li> <li>・職業教育課題に即した研修や会議を適切な時期に実施する。</li> </ul>                                    |
| 達成度の判断・判定基準あるいは指標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・事後アンケートの分析結果</li> <li>・実践集などからわかる教育実践、生徒の姿</li> </ul>   |
| 取組状況・実践内容等   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研修 ・校外研修（岐阜県特別支援学校研究会等）</li> <li>・コア・スクール事業 ・実践集 ・校内支援会議 ・ケース会議</li> <li>・個別の教育支援計画 ・地域支援センター ・センター的機能充実事業</li> </ul>                               |
| 評価の視点  | 評価  |
| ①個別の教育支援計画の作成支援や相談支援を行い、三者懇談を通して共通理解を図ることができたか。  | A (B) C D   |
| ②職員研修を通して進路指導力と教育実践力を高めることができたか。   | A B (C) D   |
| 成果・課題  | 総合評価  |
| ○個別の教育支援計画は生徒、保護者が理解しやすい表現と内容で、支援の手立てがわかるように作成支援することができた。<br>○職員授業参観交流やコア・スクール公開講座を通して、お互いに授業を見合い、情報交流することで指導実践を振り返り、生かすことができた。<br>▲職業教育推進やコア・スクールを核とした専門性向上について、職員間で共通理解したうえで職員研修や指導実践をすすめることができなかった。 | A (B) C D   |
| 来年度に向けての改善方策案  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・引続き個別の教育支援計画は、生徒と保護者が理解しやすい表現と内容で記載し、合理的配慮や支援の手立てがわかるように作成する。</li> <li>・コア・スクールを核とした専門性向上について職員が意識できるように取組み方や内容について見直し、職員の進路指導力や教育実践力を高める。</li> </ul> |

学校関係者評価 (令和5年2月24日実施)

|           |  |
|-----------|--|
| 意見・要望・評価等 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・コア・スクール公開講座の参加者がさらに増えるよう、特別支援学校以外の校種や近隣の市町村に広く案内を出すが良い。</li> <li>・コア・スクールの障がい種は軽度知的障がいと聞いているが、社会で関心の高い発達障がいも対象とする障がい種に加えると良い。</li> </ul> |
|-----------|--|

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書【渉外部】

岐阜県立岐阜清流高等特別支援学校

学校番号

106

自己評価

|  |  |
|--|--|
| (渉外部)<br>教育目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティ・スクール制度に伴い、生徒が地域の中で所属感や一体感を味わい、地域社会の一員として生きていく自覚や自信を持つことができるよう、交流及び共同学習、地域社会と生徒が一体となった活動を強化し、推進する。</li> <li>・生徒の健全な発達及び福祉の増進を図るため、保護者が主体的にPTA活動に取り組むことができるよう支援する。</li> </ul>   |
| 評価する領域・分野  | 「保護者、地域との連携」   |
| 現状及びアンケートの結果分析等  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「5いろいろな人との交流を大切にし、生徒の経験を広めている」に当てはまる、やや当てはまるに76%、「28 地域との交流事業や地域の施設・人材を積極的に活用し、地域との連携強化を進めている」は70%あり、保護者の地域交流への関心の高さが伺える。また、「30 保護者と一体になって、PTA活動を進めている」は80%あり、PTA活動に積極的な保護者や協力的な保護者が多く、良い活動となっていることが伺える。</li> </ul>                      |
| 今年度の具体的かつ明確な重点目標   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の社会性や豊かな人間性の育成を目指し、交流及び共同学習を推進する。</li> <li>・役員や委員長と連携を図り、保護者の主体的なPTA活動を支援する。</li> </ul>  |
| 重点目標を達成するための校内組織体制   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・交流校や地域の自治会連合会との連絡調整をもとに、関係部署との連絡調整を行った。</li> <li>・PTA会長と相談しながら方向性を決め、役員へ意見を図りつつ活動を推進する。</li> <li>・PTAの専門委員会ごとに担当者を決め、委員長と連携を図りつつ活動を推進する。</li> </ul>  |
| 目標の達成に必要な具体的取組   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校間交流として、学校交流の計画・実施</li> <li>・地域交流として、地域の清掃活動や文化祭などの参加計画・実施</li> <li>・PTA役員や各専門委員長を中心としたPTA活動の計画立案・実施。</li> </ul>  |
| 達成度の判断・判定基準あるいは指標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校間交流、地域交流を通し、生徒の社会性や豊かな人間性を育むことができたか。</li> <li>・主体的なPTA活動を推進することができたか。</li> </ul>   |
| 取組状況・実践内容等   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA総会、役員会3回、執行部会2回(役員推薦委員会)、各専門委員会3～4回実施。</li> <li>・PTA企業見学会、PTA研修会・清流祭への参加(日用品バザー、ゲームコーナー)</li> <li>・外部団体の研修会(オンラインを含む)への参加。高P連、特P連、知P連など</li> <li>・岐阜城北高等学校家庭クラブと本校福祉コースとの交流を実施。</li> <li>・地域での清掃ボランティア交流を1回実施。(山田川周辺の清掃活動)</li> </ul> |
| 評価の視点  | 評価   |
| ①コミュニティスクール制度の視点に立ち、地域の自治会連合会長と相談・連絡を行い、行事を計画立案することができたか。  | A (B) C D  |
| ②生徒の社会性や豊かな人間性の育成のための学校行事や学校間交流、地域交流に関する計画立案・実施ができたか。  | A (B) C D  |
| ③主体的なPTA活動を推進するために保護者と連携を図ることができたか。  | A (B) C D  |
| 成果・課題  | 総合評価   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○コロナ禍であっても交流活動の実施を目指して、地域の方や交流校と相談・連絡を取り合い、可能な方法を検討し、安全に配慮して交流することができた。</li> <li>○地域の自主的な清掃活動を通して、地域のために活動している姿を認められたり、期待されたりしていること実感させることができた。</li> <li>○通学路の清掃をすることで、普段使っている場所をきれいに使いやすくすることの達成感を感じさせることができた。</li> <li>○各担当者がPTA役員や各専門委員長と連携を図り、計画的に各委員会活動を推進することができた。コロナ禍でPTA委員会活動の場所や収容人数に制約があったが、感染予防の対策を徹底することで、情報交流や研修会の機会も増えてきた。</li> </ul> | A (B) C D  |
| 来年度に向けての改善方策案  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域交流は、地域交流委員会と連携し、生徒が主体的に参加していけるよう支援する。</li> <li>・コロナ禍でもPTA活動の実施を目指して、PTA役員や各専門委員長と連携を図り、感染対策を徹底する中で実施できる方法を検討し、活動を支援する。</li> </ul>  |

学校関係者評価 (令和5年2月24日実施)

|  |
|--|
| 意見・要望・評価等  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校側から地域の行事に参加することで、地域が学校の事をより認知していくことができている。</li> <li>・学校で行われている行事に、地域住民が参加できるよう案内を出してほしい。ぜひ参加していきたい。</li> </ul> |